

児童発達支援事業所における自己評価結果(公表)

公表 令和5年2月1日 事業所名 児童発達支援センタークムレ (配布42 回答38 回収率90%)

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
1.	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である。	34	4	<ul style="list-style-type: none"> ・グループ分け、部屋移動をして人数を分散している ・教室のレイアウト 子どもたちが落ち着いて過ごせるように、衝立を利用したり、玩具の置き方を工夫したりしている ・適切ではあるが、より1人1人のスペースを確保するために、クラス以外の場所を活用して分散して過ごしている 	<ul style="list-style-type: none"> ・適切ではあるが、より良い環境整備のために見直しを行う ・子どもの姿に合わせて、部屋の用途を柔軟に変更したり、譲り合ったりして調整する
2.	職員の配置数は適切である。	27	11	<ul style="list-style-type: none"> ・職員の休み、お子さんのお休みなどがあれば、センター内で助け合っている ・配置数は、常にゆとりがあることが一番であるが、ない場合でも、なるべくゆったりとした雰囲気を作りながら支援ができるようにしている ・クラスを単独ではなく、複数合同や連携しながら支援している 	<ul style="list-style-type: none"> ・急な休みが重なる場合はある ・余裕をもって支援したいため、職員数を増やしてほしいとの要望は多い ・より良い支援を行うために、互いの認識合わせやコミュニケーションが必要である
3.	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	35	3	<ul style="list-style-type: none"> ・お子さんの姿に合わせて、環境を見直している ・電子媒体の連絡帳を活用し、動画や写真で情報伝達を行っている ・子どもたちの姿によりレイアウトを変えている ・情報伝達は、1人1人の理解の仕方に合わせられるよう努力している ・特に支障はない 	<ul style="list-style-type: none"> ・医療的ケア児が安心して過ごせるスペースを確保すると共にクラスの子どもの遊びの空間がもう少し広くあったら良いと思う ・親子棟は段差も多く、建物の構造面で単独棟との差が大きい。単独棟は、狭く感じる ・限られたスペースを有効に活用する方法を検討する
4.	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。ま	36	2	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な視点で、意見を出し合い生活空間を整えている 	<ul style="list-style-type: none"> ・クラスに敷いてあるマットの上を、上履きのまま歩く職員がいる

	た、子ども達の活動に合わせた空間となっている			<ul style="list-style-type: none"> ・換気扇などの細かいところも丁寧に掃除をしている ・消毒や清掃を活動の都度行われており、衛生面に注意を払っていると感じる ・集団療育室の水回りや倉庫の中が乱雑になっていた際には片付けるようにしている ・不潔なところは、気づいたら時間を作り清潔にする 	<ul style="list-style-type: none"> ・掃除が疎かなことがある。 ・トイレ介助の際に、空間の狭さから、子どものペースに合わせた援助ができず、清潔さや心地よさがきちんと確保できないこともあるため、常にそれらを確保しながら援助する
5.	業務改善を進めるためのPDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	36	2	<ul style="list-style-type: none"> ・活動を実施する前には、計画を立案し、実践し、振り返り改善している ・クラスの話をして、その子の特性に合わせた目標についても詳しく話している 	<ul style="list-style-type: none"> ・意見を求められた際に、自分のこととして考え、客観的な視点で意見を伝える努力が必要 ・嘱託職員までおられていないように感じます ・一定の職員のみが行っているように感じる ・職員個人によるが、チーム全体を俯瞰した視点を持つ職員もいれば、自分視点での意見になりやすい職員もいるため、意見交換しやすい雰囲気作りが必要
6.	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	38	0	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者や職員の様子や意見を聞きながら、改善を図っている ・気持ちを常に共有している ・ケアコラボ(電子連絡帳)で密な意見交換、情報共有も行えているが、コメントの少ない保護者との情報交換の持ち方についても、懇談だけでなく送迎時等でも意識的に意見交換、情報共有を行えていると感じる ・評価表については分からないが、日々のやりとりで保護者の意 	

				<p>向を汲み取れるように意識して関わっている</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業所評価や第三者評価を実施し、意見を頂いている。日々頂いた意見に対しても改善策を検討し、お便りで公表している ・事業所評価に限らず、保護者からのご意見等は常々状況に応じて共有があり、また解決案もわかりやすく提示されている 	
7.	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	38	0	<ul style="list-style-type: none"> ・結果は、保護者や職員へ伝え、ホームページに掲載している ・倉敷市の児童発達支援センターとして、ゆめばるのホームページで公表している 	<ul style="list-style-type: none"> ・「知らない」とコメント有朝礼で知らせても周知できてないため、評価や公表について、事実を书面化し全職員が閲覧できる方法で周知する
8.	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	36	2	<ul style="list-style-type: none"> ・令和3年11月に受診嘱託職員の積極的な活用について改善指導があり、業務内容や時給などを見直した 	<ul style="list-style-type: none"> ・「不明」とのコメント有書面や口頭で周知する機会を増やす
9.	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	38	0	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的にある。内容は見直しが必要と感じる 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的を実施しているが、より実践に繋がる研修が必要 ・常勤職員に対しては研修頻度が高く設けられている。ただ、嘱託職員に対しては現場で学ぶことが多いため、研修の機会を増やしていただきたい(研修に参加できない場合でも、資料や動画として参加)。特に子どもの特性に対する対応は現場で学ぶことが基本となるが、基本的な対応を学べるような機会があれば、全職員のベースアップが図られるのではないか ・意識的な資質向上というよりは個人の意識的な部分も大きいので、目標管理等でさらに課題整理していく必要は感じる

10.	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	36	2	・課題の整理表をもとに、話し合いながら作成している	・職員1人にかかる負担が大きすぎて大変だと感じる ・アセスメント、ニーズの分析、計画立案は、支援の基本であることを認識合わせする
11.	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	36	2	・太田ステージ、遠城寺式乳幼児分析的発達検査を活用している	・障がい特性に合わせて、その他のアセスメントツールも活用する
12.	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	38	0	・それぞれの家庭や地域の状況に合わせてながら、支援している	・支援計画に記入する文言は、さらに具体的な内容になるよう、クラス会議などで多くの職員の意見を取り入れる
13.	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	38	0	・クラス会議で話し合い、職員間で周知している ・日々の支援においても、声を掛け合っている	・計画に沿った活動を設定しているが、職員配置によっては十分に行えていない場合がある
14.	活動プログラムの立案をチームで行っている	36	2	・年間指導計画をもとに、クラスだけでなく、年次で立案している ・他クラスの職員と話し合い、年次活動も意識して月案を作成している ・日々の活動についても情報共有をしている	・クラス会議で多職種の意見も取り入れている ・話し合いの場で全職員の合意が得られない場合がある。日常のコミュニケーションを深めていきたい
15.	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	37	1	・職員間でアイデアを出し合っている ・季節や伝承行事に合わせた活動や、外部に出る機会、外部講師による活動の機会を設けている ・毎月似たようなことをしているが内容は子どもに合わせて変えていきつつある	・同じことの繰り返しになってしまっているのを改善していきたい ・お子さんの興味関心、経験に応じた活動プログラムをセンター全体で検討する
16.	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ	38	0	・生活年齢、発達年齢に合わせ、グループや	

	せて児童発達支援計画を作成している			個別で活動設定を行っている	
17.	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	37	1	<ul style="list-style-type: none"> ・確認するようにはしているが、出来てないこともある ・指示がない場合は、自ら確認している ・打ち合わせを行うよう努力しているが、勤務形態により十分な実施が難しい場合もある ・担任の先生中心に、日々実施している 	<ul style="list-style-type: none"> ・クラスによって差がある ・打ち合わせをしていないクラスもある ・個人個人でしている ・大前提となる子ども一人一人の特性記録や支援計画の共有が不十分、お子さんの行動の背景理解や支援の目指すべきところを理解できていない支援になっていないか ・その場しのぎの対応になってしまっていないか、不安もある ・もちろん自分から情報を取りに行くのが大事ですが、子どもの特性に関することだけは、常にどの職員にも分かるよう情報を発信されているとよりチーム間での共通理解も深まり、実り多い支援に繋がるのではないか ・打ち合わせの時間はなかなか取れない。
18.	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	29	9	<ul style="list-style-type: none"> ・クラス会議などで周知している ・支援終了後に振り返りができない場合もあるため、気になったことは、メモに残したり、後日伝えるようにしたりしている ・勤務時間の都合により難しいことが多いが、クラスノートを活用し、文字に残すよう努力している 	<ul style="list-style-type: none"> ・終業時間とお迎え時間が重なるため、その後に話し合いをする時間がない ・職員の気づきを共有する取り組みを数か月実施し、多くの意見集約ができたため、継続する
19.	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	36	2	<ul style="list-style-type: none"> ・記録して残している ・ケアコラボなども活用し、文章、写真、動画など保護者も具体的なイメージが出来るような記録を活用している。検証についても改めて見直す為のツ 	<ul style="list-style-type: none"> ・クラスのノートに子どもたちの姿 様子 支援の特記事項をもう少し残す努力をしたい ・個別支援計画に関する記録や活動内容を振り返る記録をとっているが、書くことが目的になっている

				ールとして活用ができるものとなっている	ため、検証し、改善に繋げていくことが課題
20.	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	37	1	・1週間に一度見直している	
21.	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	38	0	・担任と児童発達支援管理責任者、管理栄養士、作業療法士、看護師が参加している	
22.	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	38	0	・電話や書面で情報共有を行い、必要に応じて役割分担を行っている	・管理者、児発管は行っているが、外部とあまり関りが無い職員は分からない
23.	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	38	0	・病院や訪問看護、相談支援専門員と連携している ・就学については、教育委員会と情報共有をしている ・主治医や担当のセラピスト職種、訪問系の支援事業所とも情報交換を行っている	・管理者、児発管は行っているが、外部とあまり関りが無い職員は分からない
24.	医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	38	0	・主治医や担当のセラピスト職種、訪問系の支援事業所とも情報交換を行っている	・管理者、児発管は行っているが、外部とあまり関りが無い職員は分からない
25.	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	38	0	・なるべく対面での情報共有を行わせてもらうよう依頼している ・必要に応じて直接園同士や相談支援を通し連携を行っている	
26.	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	38	0	・就学資料の作成や対面での引き継ぎを行っている ・就学後は連絡会に参加し、卒業後も情報共有を行っている	・卒園直後の情報交換はあるが、継続して積極的な関わりにはなっていないようにも感じる
27.	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	34	4	・法人内の事業所は合同で研修を開催している ・他センターとは、自立支援協議会で情報交換や協議を行っている ・センター同士は市内の連携会議が定期的に実施されており、事	・管理者、児発管は行っているが、外部とあまり関りが無い職員は分からない

				業所ともケースを通してや法人内の会議にて情報交換などを実施している	
28.	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	36	2	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナで制限はあるが、伝承行事やリズム遊びなどの活動に参加できる機会を設けている ・年間行事で積極的に実施している。センターから保育園や幼稚園へ移行したケースもある 	・コロナ禍の為、減っている。徐々に緩和されると良いと感じる
29.	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	31	7	<ul style="list-style-type: none"> ・管理者や児童発達支援管理責任者が参加している ・参加前には、活動の意図を参加予定を周知し、参加後は会議録を回覧し周知している 	・管理者、児発管は行っているが、外部とあまり関りが無い職員は分からない
30.	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	37	1	・連絡帳や登降園時にお伝えできるようにしている	・課題の共通理解については、伝え方や方向性の共有について、職員同士でのコミュニケーションが必要である
31.	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	36	2	・ペアトレ、保護者勉強会、親子療育を実施している	・管理者、児発管は行っているが、外部とあまり関りが無い職員は分からない
32.	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	37	1	・運営規定は玄関に誰でも閲覧できるように掲示している	・利用者負担は契約時に説明し、同意を得ている
33.	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	38	0		・同意を得ているが、ガイドラインの説明と個別支援計画の説明の機会が別であるため、連動していることをより分かりやすく説明していく必要がある
34.	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	37	1	・登園、降園の送迎時、連絡帳や電子連絡帳において、相談に応じている	・「保護者の方とあまり話す機会がない」と感じている職員もいるため、送迎時の保護者対応などほどの職員も実施できるようにする
35.	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	38	0	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者会が組織されている ・保護者会主催のイベント(座談会など)により保護者同士が交流する機会がある 	

36.	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	38	0		・適切かどうかは不明 ・返答が遅いと保護者からの意見があるため、担任だけではなくセンター全体で対応する
37.	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	38	0	・毎月、園だよりにて発信している	
38.	個人情報の取扱いに十分注意している	37	1	・お子さんに関することは、個人情報と捉え注意している	・少し、注意が緩くなっているとの意見もあるため、互いに確認しながら取り扱う
39.	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	38	0	・カードやジェスチャーなど、活用しやすいツールをアセスメントして取り入れている ・保護者の方にも、口頭だけでなく書面、写真でお伝えするなど、必要に応じて配慮するよう努力している	
40.	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	35	3	・夏祭りやしめ縄作り等、地域のボランティアの方の協力を得ている ・実習後に、ボランティアに来てくださる学生さんもいる	・コロナ感染予防の緩和が進めば、保育園と協働し地域の方を招いた行事実施を行いたい
41.	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	37	1	・マニュアルに基づいて訓練を実施している。実施後は、保護者へ周知している	・様々な状況に対応できるよう訓練を重ねていく必要がある
42.	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	37	1	・月一回程度行っている	・火災、地震、水害、防風、不審者など災害別に訓練を実施しているが、参加するだけでは理解しきれない部分があると意見あり ・繰り返し訓練をする ・訓練の意図や振り返りを共有する
43.	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	37	1	・入園前や年度毎に必ず確認している	
44.	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	38	0	・管理栄養士、看護師、担任、児発管を含め、確認を行っている	・クラスにアレルギーのお子さんがいないため分からない
45.	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	36	2	・事業所内の事故やヒヤリは、職員間の共有にとどまらず、毎月のお便りで保護者とも共有している	・事例集の存在自体を知りません ・適宜他クラスのことでも共有していただいているので、共通認識が図られている

					・ネットワークを活用して情報や事例の蓄積をしているが、積極的に自分から情報を取得しに行く必要がある
46.	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	36	2	・全体での研修とクラス会議での話し合いを実施している	
47.	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	38	0	・原案作成会議、クラス会議などにおいて話し合いを行っている	